

【レポート】

現業活性化の一つとして、1997年から現業独自の取り組みとして、毎年夏休み期間中に小学校の児童とその保護者を対象に「夏休み親子体験ツアー」を開催している。

私たちが働く職場は、日常において直接市民と接する機会の多い職場ではあるが、職種によっては市民に見えづらい職場もあると思われる。この体験ツアーを通して、「親子のふれあい」「市民とのふれあい」をしながら職場体験を行うことで、私たち現業職員の現場実態やその必要性を認識してもらいたいがある。

夏休み親子体験ツアー

— 地域に根差した現業職員たちの取り組み —

長崎県本部／自治労佐世保市職員連合労働組合・現業労組・書記次長 熊本 敬太

1. ごみの収集や分別の大変さなどを親子で楽しく体験&学習

(1) 現業各部会（5部会）のアイデアが満載

① 具体的体験内容（過去の開催内容を含む実績例）

ア ごみの収集体験引き出し（環境部会）

佐世保市の地形は急傾斜地が多く、道が狭いためごみ収集車が入らない。そういったところをどのようにしてごみ収集を行っているかを体験。

ごみ収集車に乗って移動し、参加者に実際に体験してもらうことによって、引き出し作業はどれだけ大変かということを実感していただき、きちんと分別して出すことの大切さも参加者に意識付けする。

イ 施設（東部クリーンセンター）見学（環境部会）

余熱利用できるごみ処理施設にて、ごみ処理工程のビデオ鑑賞や施設内の見学を通してどのように処理されているかを学ぶ。

ウ 自然の工作（学校現業部会）

学校管理員の指導のもと、枝・木や落ち葉を使った工作を行う。夏休みの作品展にも多数出品される。

エ 昼食提供（学校給食部会）

給食調理員が、給食で大人気のカレーやハヤシライスを作って提供する。

昼食をとりながらみんなが毎日食べている給食はどのように作られているかをパネルに展示して紹介する。近年は給食調理員が寸劇を行い、大量調理に使用する食材の「重さ当てクイズ」など、子どもたちを巻き込んだ取り組みを展開している。

オ 環境戦隊エコレンジャーショー

現業職員が扮する、「エコレンジャー」の活劇を通して、ごみの分別について分かりやすく説明し今後、家族でごみの出し方について考えていただく。

カ 廃油石鹸などのプレゼント（学校給食部会）

学校給食で使い終わった油（廃油）を使用して石鹸を作り、参加者へプレゼントする。また、給食で子どもたちに人気のメニューレシピを作成して配布する。

キ マイクロバスでの送迎・輸送（運転士部会）

参加者（保護者含む）の輸送全般を行う。

ク 各部会の取り組み補助（一般現業部会）

会場設営・駐車場案内・会場案内を含め、各部会の取り組み補助を行う。

(2) これまでに過去23回の開催

① 参加対象を「市内の小学生とその保護者」として、先着順で「25組50人程度」の募集を行う。おかげさまで毎回定員を満了応募をいただいている。

一定程度、佐世保市における「夏のイベント」として定着していると捉えている。

スタッフは、各部会の協力の元、50人程度を配し対応にあたる。

運営費等は、現業労組で予算組を行っている。

② 2024夏休み親子体験ツアーの概要

と き 2024年8月3日（土） 8：30～14：00

と ころ 佐世保市環境センター（稲荷町）

募集人員 親子25組50人

参加費 100円（保険代）

広報手段 月刊ならでわ！（7月号）・月刊ならでわ！ ホームページ記載・はっぴい！ FMでのラジオCM

③ 市民の反応【アンケートでの意見・要望】（抜粋）

- ・親子で良い体験ができて楽しめました。
- ・ごみの処理をみて、気をつけて出さないといけないと考えさせられました。
- ・引き出し体験をして、日頃の職員さんのご苦勞が実感できてよかった。
- ・収集している方の目線で体験できたので、分別には一層丁寧に取り組みたい。
- ・説明がとてもわかりやすく、親子共々勉強になりました。
- ・夏休みの工作（宿題）として良い作品が作れました。
- ・工作の時間をもっと増やしてほしい。
- ・給食のカレーが懐かしく感じると同時に、おいしくいただきました。
- ・スタッフの方々の気遣いや気配りに感謝。
- ・このような方々がいるから「町」が保たれているのだと実感しました。
- ・これから是非続けてもらいたいイベントです。

(3) 体験ツアーの今後

全国的に現業職員が削減されている中、佐世保市においても「職場合理化・退職不補充」のあおりを受けている。現業職員（組合員）の数（2024年4月現在・201人）が減少傾向にある中、更に市は「管理運営事項での定員見直し計画（ほぼ全廃計画）」を打ち出しており、イベントの継続性・永続性が脅かされている。

そのような中でも一部、開催内容の変更を行いながら、現状にあった規模でのイベントを開催している。

毎回のアンケートにも挙がるように、このイベントを熱望している子どもたちや保護者の声がある。そういった声に応えていくため、準備は怠らない。

先述の通り、現業組合員は減り続けているが、その中であってもこの「親子体験ツアー」を通して、現業各部会の交流はもちろん、市民の方々にも私たちの仕事の必要性を訴えながら、今後も継続した取り組みを行っていく。

